



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2020年9月13日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:1名(うち子ども0名)、

指導員:太田、木村、齋竹

テーマ 「秋の花を観よう！」

秋にはさまざまな花が見られますが、「主役はキク科、マメ科 それともヒガンバナ？」と問いつつ、見て回りました。

キク科は、セイタカワダチソウの花にはまだ早く、キクイモ、ブタクサ、オオブタクサがよく目につきました。特に、キクイモは昨年まではそれほど目立ちませんでした。今回はキツネの巣穴のあった川原に黄色の花が一面に広がっていました。種子あるいは球根で殖えますが、オオブタクサが繁茂していた川原にどのようにして分布を広げたのか興味がわきます。花粉症の原因になるとして嫌われ者のブタクサの花(雄花の花序)をルーペで観察しました。オオブタクサも同じような構造で、下向き(雄花)の総苞の中に数個の花がおさまっています。茎の切り口からはヨモギに似た匂いがし、やはりキク科の植物だなと実感できました。キク科は他にブタナ、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン(花)があり、6種が確認できました。

マメ科は「秋の七草」にハギとクズの2種が入っていることでもわかるように秋の代表的な植物です。クズの花ではこれを食草とするウラギンシジミの幼虫を探しました。花に似た保護色で見つけにくいのですが、は蕾に残された食痕をターゲットとすることが探すコツだと分かりました。138タワーパークにはアレチケツメイが、大野極楽寺公園にはカワラケツメイが群生していました。今回、それぞれの群落の中に他種の株が入り込み、アレチケツメイとカワラケツメイが隣り合っていて、違いを見比べることができました。マメ科は他にヤマハギ、メドハギ、ヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、フジカンソウ、ヤハズソウ、ツルマメ、ノアズキの花があり、11種が確認できました。

大野極楽寺公園ではヒガンバナが咲いていました。秋分の日前後に花が見頃となる所が多いのですが、ここは毎年他所よりやや早く開花しています。(報告:齋竹)



(クズの花にいるウラギンシジミの幼虫探し)

<その他観察できたもの>

花: オオフタバムグラ、メリケンムグラ、アメリカネナシカズラ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、ヘクソカズラ、アレチハナガサ、ヒメクマツツラ、オッタチカタバミ、ヤブラン、ツルボ、ツユクサ、ミソハギ、ミスヒキ、ギンミスヒキ、マメアサガオ、ハラオモダカヤ、フミヨウガ、ダイコンソウ、オミナエシ、キキョウ

虫: シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、リスアカメ、ギンヤンマ、キタキチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ(幼虫も) ムラサキシジミ(幼虫も)、ツマグロヒョウモン、キタテハ、ヒメアカタテハ、イチモンジセセリ、マルカメムシ、アブラゼミ(声)、ツクツクボウシ(声)

鳥: キジバト、セグロセキレイ、ヒヨドリ、アオサギ、ハシボロガラス、ウグイス(声)、コジュケイ(声)



川原に殖えたキクイモ



ウラギンシジミも幼虫
花の色にそっくり。



カワラケツメイ(左)と
アレチケツメイ(右)



ヒガンバナ(曼珠沙華)